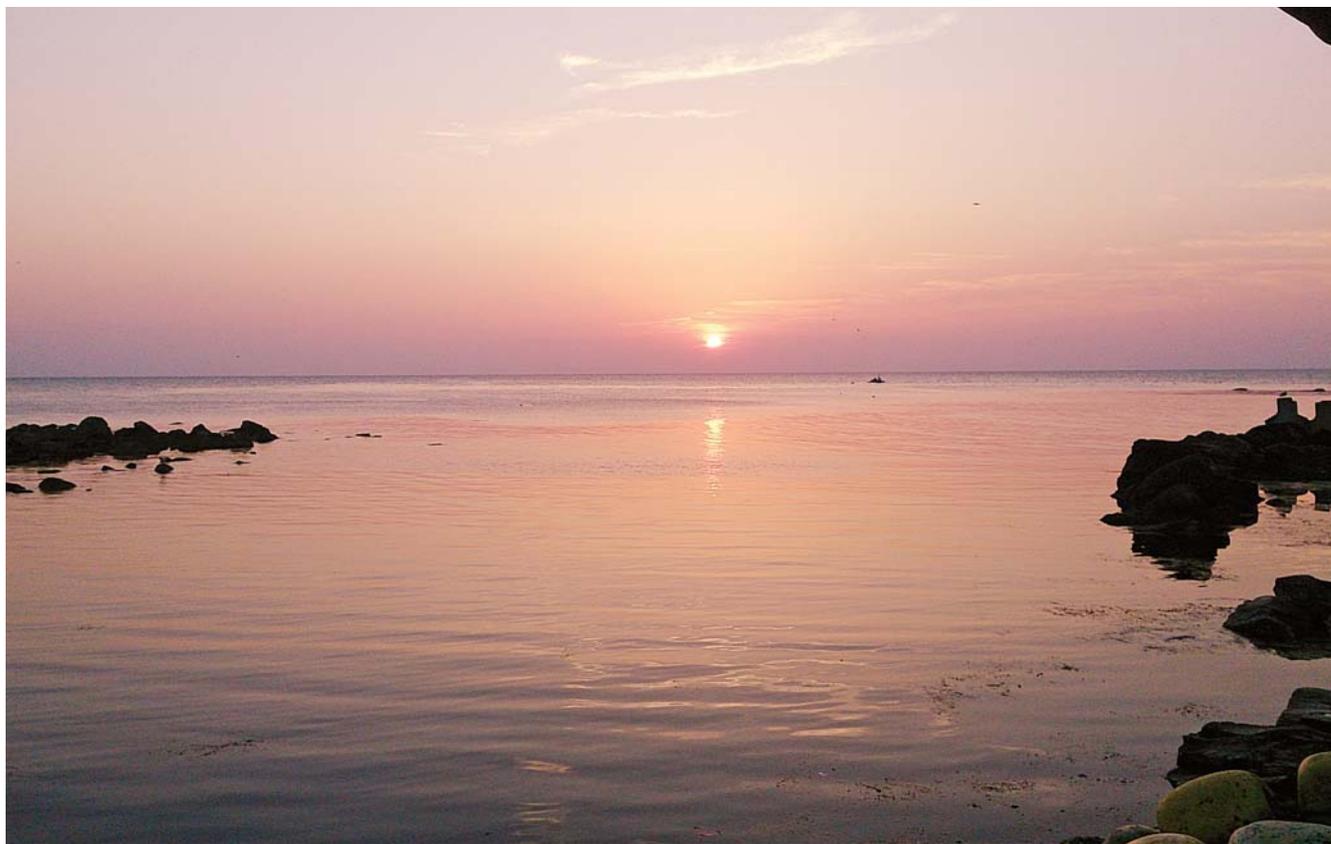


七尾市農業委員会だより

2018
新年

平成30年1月1日発行／発行 七尾市農業委員会／編集 農業委員会だより編集委員会
TEL 0767 (53) 8440／FAX 0767 (52) 7765／E-mail:nougyouinkai@city.nanao.lg.jp

No.50



明けましておめでとうございます

本年もよろしく願い申し上げます

平成30年元旦 七尾市農業委員会

会長職務代理者
委員 長

事村成瀬坂山村細桜岡福出大細西白大伊前細長竹白
務局瀬田戸本口田谷井田田村橋道野井濱豆吉川川山山
職員峰芳茂良光正明政一純光宏 秀 良俊正 久
同行信雄正男明郎慶郎也男一清猛一昭一明行勝雄博

農地利用最適化推進委員

川寺辻松須島酒松高木中萩橋山加和松橋坂
上井 中崎本井本森下村原本田地田島下井
英茂功昭正 米正豊重俊良重俊 正一助
伸雄典裕夫光稔浩博秋信彦子隆隆修弘博光

農業委員

会長新年挨拶

新年あけましておめでとうございませす



七尾市農業委員会

会長 坂井 助光

皆様には輝かしい初春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

平素は農業委員会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、農業にとって大きな変革の年でありました。

農業災害補償法・土地改良法等々多くの農業関連の法律や制度の改正がありました。

七尾市の農業委員会におきましても、認定農家を過半以上とする新たな制度の下、新委員19名と農地利用最適化推進委員22名が選任されました。

農業委員と農地利用最適化推進委員が力を合わせ、担い手の育成確保、遊休農地の解消等、地域を守り活性化するための役割には大きなものがあります。

少子高齢化、若者の農業離れ等環境は厳しいものがあります。が、いくつかの地域では農地中間管理機構を活用しての圃場整備に取り組んでいます。

これからも農業委員や農地利用最適化推進委員は、地域の世話役として行政や農業関係団体と連携し、農業の持続的発展に取り組んでまいり所存でございます。

平成30年が皆様にとりまして幸多き年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

頑張ってます!

《part 27》

夢中になれる果樹園の楽しさ

粟津 信一さん (吉田町)



4年前、22年間経営していたビデオ制作会社を息子に渡しました。

その時は私は60歳、もう一度自分に出ることはないかと思索し、私が選んだ地元のコシヒカリ、中島菜加工品、田鶴浜建具木工品などの特産品や名産品を販売しようと小売業として「粟津商店」を立ち上げました。

うまくいくか心配でしたが、県内の道の駅、スーパーそして旅館など12店舗に私の商品を置くことができました。順調に進んでいた3年目に体調を崩してしまい、考えた末、粟津商店を続けながら、以前からの夢だったブルーベリーの栽培を、本格的に事業として始めました。

初めは、以前からあった12本の木から収穫し、数少ない完熟したものを地元のスーパに置いて頂きました。ブルーベリーの売れ行きが好調に進み、木を増やすことを決断しました。

その後、以前お世話になった柳田普及センターの方の指導により、能登で初めてのアゼ波板を使った鉢植え方式で栽培をすることになり、以前、米を耕作していた田圃を栽培用に整地して苗を50本植えました。

栽培方法は、柳田普及センターに何度も通い、また、柳田の生産者の方にもノウハウを教えて頂きました。

苗木から3年は収穫せず花芽を取り、とにかく苗を大きく育てることに集中しました。昨年、よ



うやく50本の苗も大きくなり、実を生らせました。

完全無農薬栽培として育て、1年中、害虫の被害がないように管理し、春は、花芽の剪定、夏の剪定、ミツバチの勾配、収穫、そして冬の剪定、雪囲いと作業をします。私が夢中になれることをやって、それが家族の為に、私の喜びとして返ってくる。これほど楽しいことはありません。

現在、畑には、ハイブッシュ系とラビットアイ系を含めて24種類、約140本が育っています。ブルーベリーの収穫は約3ヶ月間の短い期間で、その間、収穫時において天候に左右され、商品の出荷が遅くなったりします。前もって予測して、事前に備えることでリスクを最小限に抑えることに苦勞します。それでも、私にとってはやりがいのある仕事だと思っております。まだまだ挑戦したいことが一杯あります。

昨年の春から、「里山ブルーベリー園」として改めて営業をし、完熟ブルーベリーをスーパー、道の駅、そして個人販売、ネット販売をしています。また、苗1年ものも販売することになりました。手を加えると、それに答えてくれるかのように美味しい可愛い実をつけてくれます。

これからも、粟津商店の「里山ブルーベリー園」として美味しいブルーベリーをより多くのお客様のお口に入るよう頑張っていきたいです。



第55回農業委員会大会

十一月二〇日、加賀市の「文化会館」で県内市町から500人近くの農業委員、農地利用最適化推進委員ほか関係者が参集して、石川県農業委員大会が開催されました。

当日は式典を前に東北大学大学院教授 冬木勝仁氏による「どうする？2018年産問題」と題し基調講演が行われました。

その後、農業政策に関する提案議決一件、「新・農地を活かし、担い手を応援する全国運動」の推進と改正農業委員会法に基づく新たな組織づくりに関する申し合わせ決議を採択しました。

また、この大会の席上において、永年勤続農業委員の表彰が行われました。

表彰を受けられたのは次の方々です。

全国農業会議所会長表彰
(通算20年以上)

福田 浩 氏

寺井 文昭 氏

石川県知事感謝状
(通算15年以上)

松本 米治 委員

石川県農業会議会長表彰
(通算9年以上)

山田 重隆 委員

須崎 昭夫 委員

宮本 精一 氏



視察研修報告(新潟県魚沼市)

十一月一日から二日

新潟県魚沼市は、魚沼コシヒカリの生産地として名知られており、地域性を活かした取組を行っていること、また、新制度への移行も同じ時期であったことから、視察研修場所として選定しました。魚沼市農業委員では新制度移行の問題点や今後の課題、鳥獣被害等の意見交換を行いました。

各地区の農業委員と推進委員が集まり、情報交換や農地パトロールなどの活動を地別に活発に行っていること、食育活動として、各小学校へ委員が交替で出向き、農業に関する話など、「農業とは」を知る機会を与えていることなど委員が積極的に活動を行っている様子が見られました。

鳥獣被害については雪がたくさん降るといことから、イノシシの被害はなく、シカ、サルなどの被害があるとのことでした。
JA北魚沼農協雪室倉庫は、雪国ならではの自



然を活用した施設であり、倉庫内の温度、湿度が管理されて、耕作者、品質が表記されていた。また、倉庫内お米の出荷先がすべて決まっております、必要な時期に必要な分を出荷するという個別管理を徹底して行っていることに驚きました。

「魚沼産こしひかり」がなぜ、高いかという疑問はありましたが、付加価値を付けるための食味等の規定や、生産から管理まで行き届いた取組みがなされていることを知り、納得をしました。

コシヒカリと雪室を活用しての酒蔵、直売所においても、担当者の説明から農業を産業と考え、農産物を持ち事業に取り組んでいくことがわかりました。今回の視察で学んだことを今後の活動に行きたいと思えます。



農業委員の活動

橋本 良子

◎農業委員としての食育活動について

現在「食育」は幅広い分野で行われ、多くの皆さんが活動に取り組んでいます。

食育基本法（内閣府）は、次の6つの基本的施策を定めています。

1. 家庭における食育の推進
 2. 学校、保育所等における食育の推進
 3. 地域における食生活の改善のための取組みの推進
 4. 食育推進運動の展開
 5. 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
 6. 食文化の継承のための活動への支援等
- 農業委員としての立場での「食育推進」については、これまでの地域における取り組みを生かしつつ、生産者と消費者が互いの立場を理解できるように「食」についての知識について発信する機会を作っていきたいと思っております。

その1つとして、現在ミナクルで行われている「子供食堂」開催時には、お米の紹介と提供を企画し、季節の野菜などの紹介もできればと思います。

また保育園での親子収穫体験なども盛り込んで、様々な機会に「食の大切さ」を発信し、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向けての取組みを増やしていけるように活動していきたいと思っております。

こんな時は農業委員会へ

(No.1)

【非農地証明】

土地登記簿上の地目が農地（田・畑・樹園地）で、その状況が農地以外の土地になっているもので、一定の条件（山林、宅地など）を満たしている場合は、非農地として証明を受けることができます。

【耕作証明】

土地登記簿地目が農地（田・畑・樹園地）であり、現況きちんと耕作し、全体的に肥培管理がされている農地であること。

ただし、現時点で、

- ・農業経営をしているか。
 - ・農作業に必要な農機具を確保しているか。
 - ・地域において農業経営に必要な下限面積を達成しているか。
- などの条件を満たしている場合は、証明を受けることができます。

詳細については、農業委員会事務局までお問い合わせください。



＊編集後記

明けましておめでとうございます。旧年中は農業委員会だよりを愛読いただきありがとうございます。今年度は厳冬の予報ですが除雪作業等では健康に充分留意し、厳しい冬を乗り切りたいものです。

本年も編集委員一同皆様によりよい情報を発信し少しでも、お役にたてる様がんばってまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

編集委員一同

農業者のための年金 農業者年金 に加入しましょう！

経営と暮らしに役立つ情報がたっぷりの農業専門誌

全国農業新聞を 購読しましょう！

※発行日 毎週金曜日
※購読料 一ヶ月700円
年額8,400円

お問い合わせ、お申込みは農業委員会へ
☎ 53-8440 FAX 52-7765